

開館二十年を経た大阪府公文書館の近況

大阪府公文書館 荻布 孝

1. 主な経緯

大阪府公文書館は、昭和60年11月に、旧大阪女子大学の施設を転用して、現在地に開設された。開設後は、府の公文書や刊行物の他、他機関の所蔵資料のマイクロフィルム複製や寄贈寄託等によって所蔵資料の拡大を図るとともに、保存方法の充実や検索方法の改善、所蔵資料を活用した企画展・歴史資料講座の開催や公文書館の普及啓発に努めてきた。近年は、電子技術を活用した歴史文書の収集選別システムや所蔵資料の検索システムの導入、所蔵資料のデジタル化・マイクロフィルム化などに注力しており、現在は特に、インターネット上で閲覧できる画像の増加や、利用者利便の増進、個人情報適切な保護など、時代の要請に対応した業務運営に取り組んでいる。当館は、平成17年11月に、利用者及び関係各位のご支援により、開館20周年を迎えることができたが、これを契機に、大阪府公文書館に求められる役割を一層効果的に果たしていくため、種々の改革に取り組んでいる。

2. 開館20周年を契機とした取り組み

当館の開設は、「当面、緊急の課題である歴史的文書資料類の収集保存とその利用にしばり、既存の施設を有効活用して公文書館の実現を図る。」との方針の下に具現化されたものであり、運営体制的にも施設の的にも、暫定的な色合いの濃いものであった。そのためか、大阪府公文書館は、一部の利用者（研究者・学生・行政関係者・マスコミ・専門的職業従事者等）を除いて認知度が低く、設置者である大阪府の職員においても同様であった。そこで、当館では、昨年来、すべての活動を、利用者の満足度の向上・館の存在感の向上という観点から見直し、可能なものから迅速に具体化するという取り組みを進めてきた。主なものは次のとおりである。

- (1) 「20年の歩み」の作成及び「20周年記念座談会」の開催 館報「大阪あーかいぶず」（平成18年3月第37号）に掲載した。
- (2) 歴史的文書の収集・保存 電子システムを活用した庁内文書の選別とともに、統廃合が進む府組織や関係団体に対しきめ細かく収集活動を展開する。あらためて、文書の寄贈・寄託制度の周知と活用を図る。
- (3) 所蔵文書の利用 インターネット・ウェブページでの目録情報やコンテンツの増加を進める。レファランス（調査相談）機能の周知を図る。
- (4) 運営体制の強化 ニーズ把握や事業推進など多角的に、他の公文書館や類縁施設

等との緊密な連携に努める。特に、教育分野との相互協力や市町村における歴史文書の保存利用に対する支援や相互協力を進める。また、公文書館における収集選別基準、個人情報保護、事務手続きなど適切迅速な業務処理に必要な諸規程の整備やマニュアル化を進めるとともに、全職員がアーキビストとして専門性の向上に努める。

(5) アーカイブズの普及啓発

記録史料の保存利用の重要性の啓発や公文書館の利用促進を図るため、対象者層が広く、参加しやすいイベント型の行事を重視し、具体化する。この際、新たな予算の増加を伴わず、当館の有する人材と施設設備を最大限まで活用することを前提とする。(「平成18年度大阪府公文書館アーカイブズ・フェア」として後述。)

公文書館が有する資源(所蔵文書・調査研究等の機能・専門的人材・施設)は、教育活動・行政活動その他の文化活動に大きく寄与するものであるとの認識に立ち、教職員研修や府職員研修等への活用、学校教育における授業や教材作成への活用などをねばり強く働きかける。ホームページを情報発信手段として一層重視し、掲載内容の頻繁な更新に努める。大阪府友会(府職員のOB会)などの組織団体の活用を図る。

3. 「平成18年度大阪府公文書館アーカイブズ・フェア」の実現

初めての取り組みであるフェアは、多くの人々が、気軽に様々なアーカイブズに触れられる機会の創設を願って、市町村・教育機関・研究者など、多くの関係者の協力を得て、当館と協働で、アーカイブズに関する多様な展示会や各種講座を集中的に実施するものである。昨年度までの当館の企画展の期間を1か月から2か月に延長して、9月19日(火)から11月17日(金)までの期間中に、実施主体や内容の異なる2つの展示会と5つの講座を設定するもので、多くの関係者が集い、賑わい、楽しみながら、アーカイブズに対する認識が得られることを期待して「アーカイブズ・フェア」と命名した。主な内容は次のとおりである。

(1) 展示会 企画展及び特別展を設定。入場無料。

ア 企画展 「近代大阪府の郡役所 - 廃止から80年 -」 明治・大正期における郡役所の役割・機能、行政区画の変遷などを、所蔵文書やパネル・模型等で明らかにする。(当館の企画)(9/19~11/17)

イ 特別展 「大阪府内の市町村の歴史」 18市町村の出展協力により、市町村史・郷土史・刊行物などを手にとって見る形で展示する。併せて、当館所蔵の大阪府史・市町村史も展示する。(11/1~11/16)

(2) 各種講座 歴史講座・古文書講座及び特別講座を設定。受講無料。

ア 歴史講座 企画展と同じ「近代大阪府の郡役所 - 廃止から80年 -」をテーマに、当館専門員矢切努が興味深く説明する。(10/2、4、6の3回実施)

イ 古文書講座 「古文書の解読」をテーマに、当館専門員松田ゆかりが、初めて

古文書に触れる人を対象に、3日間で、古文書解読の基礎知識から、当館所蔵の川中家文書（江戸時代の庄屋文書）の解読までを、講師作成の独自の教材（今年度新規開発）でゆっくり進める。（水曜日コース 10 / 11、18、25 金曜日コース 10 / 13、20、27 月曜日コース 10 / 16、23、30 の3回実施）

ウ 特別講座 アーカイブズ・フェアに賛同を得た外部講師により実施

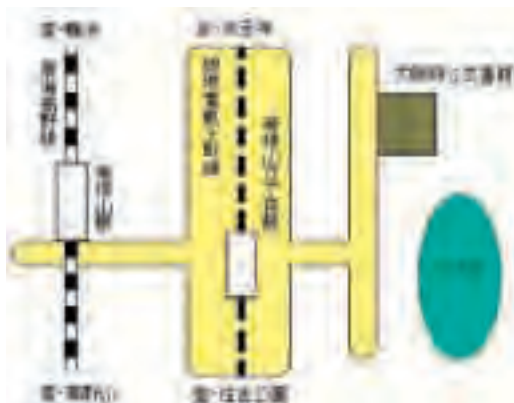
[第1回] 「狭山池の歴史」をテーマに、山本祐弘氏（郷土史研究家）が、我が国最古のダム式ため池である狭山池（大阪府南部）について、平成の大改修に伴う調査研究の成果等を紹介しながら、1400年の謎に迫る。併せて、「狭山池築造の歴史に迫る」を上映。（大阪府立狭山池博物館提供）（9 / 25）

[第2回] 「切手のない時代の郵便 - アメリカ合衆国の事例 - 」をテーマに、森本行人氏（関西大学大学院経済学研究科）が、アメリカ国立公文書館所蔵資料の調査結果に基づき、1775年から約70年間、切手なしの郵便が行われたアメリカの郵便事情を紹介する。（9 / 27）

[第3回]（第一部）「大阪からの世界史 - 沖縄出身者の生活世界 - 」をテーマに、上地美和氏（大阪大学大学院文学研究科）が、東洋のマンチェスターと呼ばれた大阪に集まった多くの人々、とりわけ沖縄出身者の歴史に焦点を当てつつ、様々な「大阪」の姿を考える。（第二部）「カナダから見た第5回大阪内国勧業博覧会とその時代」をテーマに、宇都宮浩司氏（帝塚山大学非常勤講師）が、明治36年に開催された史上最大規模の大阪博覧会を紹介し、特に、日本との関係が見えにくいカナダの視点に立って、博覧会を振り返る。（11 / 17）

4. 結びにかえて

フェアの試みが、果たして思惑どおりの結果が得られるものかどうかは現時点では明らかではない。しかし、大阪府内のアーカイブズ関係機関（者）のご協力によって、こうした規模・内容のフェアが実現したことに対して、あらためて感謝するとともに、限られた予算・人員・施設環境の中で、アーカイブズを推進するひとつのモデル（手法）として今後とも重視していきたい。



データシート

平成 18 年 9 月 1 日現在

機関名：大阪府公文書館

所在地：〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東 2 - 1 - 44

電話 / FAX / E-mail : 06-6675-5551 / 06-6675-5552 /
homu-g01sbox.pref.osaka.lg.jp

ホームページ : <http://www.pref.osaka.jp/archives/>

交通： 阪堺電軌上町線帝塚山 3 丁目駅 (徒歩 3 分)

南海高野線帝塚山駅 (徒歩 6 分)

開館年月日：昭和 60 年 11 月 11 日

設置根拠：大阪府公文書館設置要綱

組織：大阪府総務部法務課

参事 (館長) —— 主査 —— 技師

非常勤専門員 (3 名)

非常勤特別嘱託員 (4 名)

常勤職員 3 名

非常勤職員 7 名

合計 10 名

建物：鉄筋コンクリート造地上 3 階 建築面積 438m² 延床面積 1,146m²

収蔵資料の概要：

公文書 11,129 点 私文書 7,069 点 刊行物等 114,491 点 合計 132,689 点

開室日数 / 閲覧室利用者数 (平成 17 年度) : 223 日 / 865 人

主な事業 (平成 18 年度)

- ・ 収集・保存・利用 (年間)
- ・ 調査相談・調査研究 (年間)
- ・ 常設展 企画展の縮小版 (企画展開催時以外)
- ・ 平成 18 年度大阪府公文書館アーカイブズ・フェアの開催
平成 18 年 9 月 19 日 (火) ~ 11 月 17 日 (金)
企画展 「近代大阪府の郡役所」 当館企画
特別展 「大阪府内の市町村の歴史」 市町村出展協力
歴史講座 「近代大阪府の郡役所」 当館専門員
古文書講座 「古文書の解読」 当館専門員
特別講座 (第 1 回 ~ 第 3 回) 外部講師
- ・ 館報「大阪あーかいびず」の発行 (9 月・3 月)
- ・ 教職員研修等 (随時)